

## 春分の日のご来光の道

JJ1SXA/池

2024年の春分の日、3月20日(水)でした、太陽は赤道にあり、地球のどこにいても昼と夜の長さが同じになる日だ。(厳密にいうと実際には昼のほうが少し長いそうだが…)

この日は国民の祝日で、戦後の1948年に公布・施行された「国民の祝日に関する法律(祝日法)」により制定、祝日法上の春分日は毎年3月20日～21日ごろのいずれかの1日とされており、実際には日付が指定されていない。

祝日法の春分の日項目をみると、太陽が春分点を通過する瞬間が「春分」と定義され、春分を含む日のことを「春分日」とし、「自然をたたえ、生物をいつくしむ日」とされている。

また、もとは旧法にあった「春季皇霊祭」から改称されたとあり、春季皇霊祭は、現在でも行われている宮中祭祀の一つで毎年2回、春分の日と秋分の日(秋季皇霊祭)に斎行される大祭だ。

大祭とは、皇居の宮中三殿で天皇自らが斎行し、御告文(おつげぶみ)を奏上する祭祀のことで、この日は歴代の天皇、皇族の御霊が祀られる皇霊殿にて「春季皇霊祭の儀」など祭祀行事が行われ、皇族の方々も出席されることが多い。

この祭祀は、戦前の日本では非常に重要な儀式の一つとされてきた、だからこそ、国民の祝日になったのだ、そのように思いをはせれば気持ちが引き締まる。

春分の日、太陽が真東から出て真西に沈む日であり、浄土思想では、極楽浄土は西方にあり、西方に沈む太陽を礼拝することが習わしで、煩惱を払うため西に沈む太陽に祈りを捧げ、極楽浄土へ思いをはせる。

春分の日、秋分の日「此岸と彼岸が最も通じやすい日」と考えられたことから、この日に西に向かって拝むと、功德が施されるとも信じられ、それから、春分の中日を中心に供養を行うようになったそうです。

春分の日と秋分の日、国立天文台が毎年最初の官報で翌年の暦要項を発表している、国立天文台は、日本の天文学を担う研究機関で、Webサイトなどで二十四節気および雑節について細かく計算し、日時を割り出した暦要項を公表しているのだ。

また春分の日には、太陽が北緯35度22分のラインを真東から昇って真西に沈む、その際、東から「玉前神社(千葉県)」、寒川神社(神奈川県)、富士山(静岡県)、七面山(山梨県)、竹生島(滋賀県)、元伊勢(京都府)、大山(鳥取県)、出雲大社(島根県)の上を太陽が通り、一直線で結ばれ、この現象は「ご来光の道」と呼ばれ、各ポイントはパワースポットとして人気となっているようだ。

兵庫県淡路市・淡路島の伊弉諾(いざなぎ)神宮を中心にする、秋分には、三重県伊勢市の伊勢神宮から日が昇り、長崎県対馬市の海神(わたつみ)神社に日が沈み、夏至は長野県諏訪市の諏訪大社に日が昇り、島根県出雲市の出雲大社に日が沈む。

冬至は和歌山県東牟婁郡那智勝浦町・熊野那智大社に日が昇り、宮崎県西臼杵郡高千穂町・高千穂神社に日が沈む位置関係だそうです。

それにしても、すごい位置関係です、以下に、パワースポットとして知られる「ご来光の道」のスポットの住所(緯度経度)と読みがなを記します。

「玉前神社(たまさきじんじゃ)」

千葉県長生郡一宮町一宮3048。

N:35.22.33 E:140.21.38

「寒川神社(さむかわじんじゃ)」

神奈川県高座郡寒川町宮山3916

N:35.22.44 E:139.23.0

「富士山本宮浅間大社(ふじさんほんぐうせんげんたいしゃ)」

静岡県富士宮市宮町1-1。

N:35.13.39 E:138.36.36

「七面山(しちめんさん)」

山梨県南巨摩郡身延町身延4217。

N:35.22.39 E:138.24.36

「竹生島(ちくぶしま)」

滋賀県長浜市早崎町1664-1。

N:35.25.17 E:136.08.35

\*以下の3神社を「元伊勢三社」という。

「元伊勢内宮皇大神社(もといせないくこうたいじんじゃ)」

京都府福知山市大江町内宮117

N:35.25.57 E:135.09.07

「元伊勢外宮豊受大神社(もといせげぐうとようけだいじんじゃ)」

京都府福知山市大江町天田内178-2

N:35.24.08 E:135.09.01

「天岩戸神社(あまのいわとじんじゃ)」

京都府福知山市大江町佛性寺字日浦ヶ嶽206

N:35.25.51 E:135.09.00

「大山(だいせん)」

鳥取県西伯郡大山町大山

N:35.22.50 E:133.32.48

「出雲大社(いづもおおやしろ)」

島根県出雲市大社町杵築東195

N:35.24.03 E:132.41.09

(2024年3月記)

伊弉諾神宮を中心とした太陽の運行圖

